

会議録（要点筆記）

会 議 名	第1回 第7期米原市自治基本条例推進委員会
開 催 日 時	令和2年11月24日（火）午前10時00分～午前11時50分
開 催 場 所	米原庁舎 会議室2A
出席者および欠席者	出席者：白石委員、山本委員、田中委員、宇田川委員、中川委員、北川委員、山口委員、北居委員、松井委員 事務局：政策推進部 西村次長、政策推進課 松村課長補佐、川崎主幹 傍 聴：なし
議 題	【テーマ1】 オンラインでの情報共有の在り方について 【テーマ2】 オフライン（対面）でのゆるやかな交流・関わり方について（自治会機能、運営の在り方等） 【テーマ3】 職員と地域との関わり方について
結 論	・本日の意見を取りまとめ、次回に議論していく。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）	1 開会 2 市長あいさつ 3 委嘱状の交付 4 議事 （1）会長・副会長の選出について 会 長 白石 克孝 副会長 山本 真一 （2）米原市自治基本条例および第7期自治基本条例推進委員会の役割について 【資料1】 ※特に意見なし （3）意見交換【資料2】 【テーマ1】 オンラインでの情報共有の在り方について 【テーマ2】 オフライン（対面）でのゆるやかな交流・関わり方について（自治会機能、運営の在り方等） 【テーマ3】 職員と地域との関わり方について
会長	次第の三つ目に意見交換に入ります。これが今日皆様にご意見をいただきながら、意見書として、今年度まとめることができたらいいということでもありますので、資料に基づいて後程事務局からご説明いただきますが、まずテーマが三つございます。一つ目はですね、これはオンラインでの情報共有のあり方です。二つ目は、オフライン、ここで言うと、対面というふうにご理解いただければいいのですが、緩やかな交流・関わり方について、この中には自治会機能や、その運営への関わり方等についても、議論がなされてきました。

会長	<p>そして三つ目のテーマが、職員と地域。職員も、かつてと違ひまして、必ずしも皆市内に住んでいる、あるいは、米原市の出身者というわけではございません。やはりそういう中ですね、広域化した米原市の地域と、その者の職員の関わりというのは、以前とは様子が変わってきてる面もあります。そこの議論をしたいということですよ。</p> <p>まず、テーマ1について、最初に議論をしていきたいというふうに思いますが、説明はオンラインについてということですよ。なお、今回、皆さん、いろいろと、この言葉を耳にして、働き方、オフィスワークだけじゃなくていろんな形で、オンラインを活用して、在宅でとか、遠隔地からというようなことをお聞きしてると思いますが、学校教育においても同じように活用されております。もともと私どもが考えていたのはですね、情報の発信をオンラインでというような形で、前期は議論をしてきました。</p> <p>しかし、このコロナ禍での議論を見てみますと、もっと双方向のやりとりにも、オンラインが使えたり、あるいは私どもも、大学の企画、大きな企画を打ったときでも、オンラインの方が参加者が多い、わざわざ時間と場所を、往復の時間も含めて取るよりも、オンラインの方が参加が多いという企画もいくつも体験をしてきました。</p> <p>その意味で、企画の持ち方についても、オンラインとオフラインの組み合わせみたいなのを、上手にやっていくというによって、これまでとは違う参加者層を獲得することも可能になるのではないかなとか、今日この後事務局に、前期の議論を踏まえて説明をしていただきますが、ここについてはですね、おそらく前提条件自身が随分と変わる項目になるという意味で私は理解をしております。</p> <p>それではですね一括して、テーマ1からテーマ3までを、まず事務局の方から、前期議論も踏まえてご説明をいただければと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>●【テーマ1】オンラインでの情報共有の在り方について</p> <p><事務局から資料に基づき説明></p> <p>それでは、テーマごとに意見交換をしていきたいと思ひます。</p> <p>先ほど、日程の説明がありましたように、今日意見を取りまとめるという、気ではございません。ですから今日はですね、率直な感想や意見を出していただきながら、こんなことが、議論になり得る、提案になり得るということの、手がかりをつかみたいというぐらいのことで、今日の議論を進めていきたいので、取りまとめの方向に向かったご発言でなくて、こういうこと問題があるね、こういうのは初めて聞いたぞと、どうしたらいいんだ、というような話をいろいろ皆さんでしていただければというふうに思っておりますので、ぜひそのレベルでお願いいたします。</p> <p>最初にテーマ1について、意見交換をします。</p> <p>私も最初の話聞いたときにびっくりしたんですが、今の資料3のですね、一番最初のグラフ、左側見てもらうと、こんなにいろんな手段を使ってるんだな、広報</p>
----	---

委員	<p>米原市のウェブサイト、伊吹山テレビ、防災アプリ、フェイスブック、ユーチューブ、インスタグラム、議会だより、議会の生中継、パンフレット。市政情報プラザ、これは場所になるんですけども。このぐらい情報を発信しているというのは正直、第6期の委員会で話を伺ったときに、びっくりすると同時に、その時皆さんから意見が出たのが、本当にこれ、うまく活用できてないんだとしたら、何が問題なんだろう、もったいないね、という議論が当時はいっぱい出されました。</p> <p>やはり、コンテンツ内容に問題があったり、頻度に問題がある、何に問題があるのかなあとということも、その時にはいろいろ議論になりました。</p> <p>今日もまず最初に、その点に関わって、少し、市民の皆さん、私や山本さんは、こちらに住んでいるわけではないので、ウェブサイト等は見ることができますけれど、その他の媒体については、接することができる機会が少ないんですが、まずは、委員の皆様から、こういう情報がいろいろ発信されてるぞっていうことについては、どんなふうにお感じになったのかっていうことを最初にお伺いをしたいと思います。</p> <p>いかがでしょうかということで、うまくいってるとか、どうもわからんぞというような話も含めて、少し実情を教えてくださいなと思って、ご発言をいただきたいと思います。</p> <p>これちょっとみんなに聞くというのでいいでしょうか。聞いていきたいと思いますので、委員の方から、いかがでしょう。使いやすいとか使いにくいとか、そういう感想みたいなことかあれば、また、知らなかったっというのが実は多かったですよね。皆さんで、こんなことやってるの知らなかったっというがあればその点も。いかがですか。そこをまず教えていただければ。</p> <p>個人的な見解でいいですよ。私も、前は、ガラケーだったんですが、防災アプリを入れる必要があったので、スマホに変えたんです。あと、情報のツールがあることは知ってるんですけども、中身までは分からないんです。パンフレット類は私が組ごとに区分けしているので、パンフレットをこう区分けしているので、そのときに見ます。情報公開プラザは本当に使うっていうのは、そうですね、数少ないです。</p>
会長	<p>皆さんに同じ質問をするつもりですが、ご自身がやってらっしゃる、自治会の活動の中でこれは結構使えそうだとか、これは割とみんな実はよく見て使いやすいんじゃないか、また、これは使えないぞとか、体験的に考えて、これはどうでしょうかっていうのはありますか。</p>
委員	<p>一番いいのは、私は防災アプリだと思うんですけども、ただ、皆さんに、ガラケーからスマホに変えていただかないといけないという点があるので。</p>
会長	<p>わかりました。ありがとうございます。</p>
委員	<p>これだけたくさん私も幾つか拝見させていただいてるものがあるんですけど、前回でも議論をしておられるので同様の質問になって申し訳ないですけども、これ広報が一番多いということなんですけども、年齢別で見ても同じような結果でしょうか。</p>

<p>会長</p>	<p>また、発信媒体はやっぱり基本同じ、共通のものを発信しておられるのか、やっぱそれぞれの性格に合わせて発信してる内容が、違うのかっていうところを知りたいと。私が一番使わせてもらうのは、実は防災アプリで、なぜかという、各自治会の、特に私が自治会の福祉活動支援に入らせてもらうに当たって、自治会の取組を直接聞くこともあるんですけども、随時の動きが見えづらんですが、実は防災アプリは自治会別に設定ができるので、気になる自治会を設定しておいたら、まめな自治会でないと情報がないんですけども、自治会で流している放送を見ることができ、情報が入ってくるので、そこで間接的に知ることができる。それはすごく仕事上としては有効活用をさせてもらってると思っています。皆さんが、どういう情報を欲しいと思っておられるのかというところで、多分、広報まいばらならば自分自身が欲しい情報がどこかに書いている。だから、よく見られているんだろうと思う。それが、他の媒体でも同じことができる、やっぱ性格が違うわけだから、関心があるものによって差が出るのは当然なのかなってのはちょっと印象として思います。</p> <p>事務局の方で広報まいばらの主たる年齢層とか、わかるのであれば今ちょっとね、手持ちなければ、それは仕方ないですが。あと、媒体ごとに、情報の内容が大きく異なるものなのか、これとこれは同じような内容が流れてますよっていうのが、ご指摘いただけるのであれば教えていただきたいんですけど。</p>
<p>事務局</p>	<p>広報まいばらを見ている層なんですけども、見ている68.8%の内訳を言いますと、簡単に言うと、40代以降が7割、40年代までが3割となっています。年齢が高くなるほど見ている傾向が見られると。また、媒体ごとにどうかということなんですけども、確かに広報まいばらは、広く市民の皆さんにお伝えすべきことを掲載しておりますので、ターゲットを誰かに絞ってとかそういった形での情報発信にはなっていないものです。ウェブサイトも同じように、広報まいばらと同じような感じなんですけど、一応、カテゴリーとかがありますので、そのカテゴリーに合ったターゲットの人に必要な情報を届けるということで掲載させていただいております。フェイスブック、インスタグラム等については、各担当が簡単な情報、募集やお知らせ情報を、重要度の高くないものも含めて掲載させていただいておりますが、ターゲットを絞らずに発信しているということもありますので、認知度が低くなっているところもあります。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。というようなことで、それぞれコンテンツ、カバーしている内容っていうものに違いはあるんですけど。何を、今後、どのように活用を進める努力をしていったらいいのかといったことについて、また後半で意見交換して聞きたいと思います。いかがですか。</p>
<p>委員</p>	<p>私は職業上、公民館におりますので、広報まいばらに関しては、毎月発行で公民館だよりを発行してて、同じ時期に入れるんです。いつも実感するのが、「いろいろな講座をやりますよ。」ということで、情報発信を同じように入れていただいているのですが、なかなか皆さん見ていないです。「こんなのやってたの。」と後から</p>

	<p>言われたりとか、あと、公民館だよりは、旧米原町は全戸配布させていただいて、後の旧3町は回覧なんですけど、回覧で回ってきても自治会によって自分の手元に来る時期が遅くなることもあって、募集をしている間に締め切りが過ぎたとか、当日になってから入ることができないかとかいうようなずれがあったりしています。</p> <p>あと伊吹山テレビなんですけど、公民館の方でもロビーで、営業時間中はずっと流してるのですが、時々講座をやったり、何か取材が入って、公民館で、講座やっ出て出演された方が、「今度放送するから見てね。」という感じでご案内しても、いや家に伊吹山テレビを引いていないという方もいます。だから放送するその日に、見にこられる方もおられますし、家に引いている方もおられます。</p> <p>あと、一番、防災アプリの方が、情報が行き渡ってるのかなという実感はあります。皆さんにも、「どどこでこういうことがあったね。」ということをお話すると、「そういえば携帯に連絡があったね。」となり、アプリの登録は多いのかなとは思いますが、公民館も高齢者が多いので、なかなか使い方がわからんとか、今コロナで「もしサポ滋賀」もラインでの登録をお願いしても、「使い方がわからん。」とか言って、面倒くさいからやめるといような感じの御意見もいただいたりします。私たちもやっぱりフェイスブックとかユーチューブ、インスタグラムっていうのはちょっとね。前もフェイスブックやってましたけど、結構、友達登録がたくさん来るので、通知が多くて、しばらくやめてしまったりとか。それがうれしい人と面倒くさい人に分かれるわけですね。この辺はちょっとネット上になるので、変なところに誘導されたり、「怖い」という懸念を持つてる人も多い。</p> <p>あとはこの市発行のパンフレットとかで知らなかったの、ちょっとまだ勉強不足だと思いました。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>ありがとうございます。いかがでしょうか。</p> <p>私もたくさん方法があるんだなと思いました。ちょっと、そもそもの質問になってしまうかもしれないけど、この中でオンラインとして提示されるのはどれなのかなというところ。情報共有ということを考えて、例えば広報まいばらであっても、当市のウェブサイトからも見られたりしますし、これ、全国のいろんな広報紙が、見られる「マチイロ」でしょうか、何かフリーでも見られるものもあるので。だから、そのオンラインという定義を明確にした方がいいかなと思いました。多分、こんなにいろんな媒体があって、それぞれ担当されてて、職員が大変だなと思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。オンラインのところは、いろんなやり方があると思います。例えば伊吹山テレビでは、テレビケーブルでつながりだけではなくて、インターネット上で、番組を公開するというのは、民放やNHKでも、オンデマンドで過去の放送分を見られたりします。有料・無料ありますけれども。ですから、必要であれば、そういう形で、どれもオンラインの場合、一体として活用することはできる。もちろん手間暇かかりますから、優先順位はあるということで、広報まいばらは今ダウンロードできるようになってますよね。伊吹山テレビはそういう形で、</p>

事務局	<p>ケーブルの契約者しか見れないということとか、その差はありますので、ただ委員として、例えば広報まいばらがこれだけ活用されてるならば、もう少し、他の、例えば、フェイスブック、ユーチューブやいろんなところでも使えるようにしてみましようとかですね、いろんな意見があれば、オンライン展開という意味では、他の媒体、紙媒体や、映像媒体のケーブルのものでも、いわゆるオンラインインターネットを活用したものには、この後展開していくことができるので、ます。現状では、広報まいばらのように紙ベースのものも、一部オンラインでもあるということです。伊吹山テレビも、オンラインというよりは少し旧メディアですから、これもオンラインというふうにはなっていません。防災アプリは、今皆さん言っていた通りオンライン。議会だよりは議会のページ載ってますが、紙でも配られています。議会報告があった時に配られるような形でした。それからあと、パンフレット類についてもすべてが、ダウンロード可能なメディア状態になってるのかどうかってちょっと僕よくわからないんですけど、できる限りこれはみんなダウンロード管理されてるって理解でいいですか。</p> <p>そうですね。すべてではないんですけど、市民、市民さんに発信してるものについては、ウェブサイト上に上げてダウンロードできるようにさせていただいているところです。</p>
会長	<p>例えば委員が紹介いただいたような公民館だよりみたいなのは、そこはどういうふうに使われてますか、紙以外の方法もあるんですか。</p>
委員	<p>ブログで時々乗せていますが、全部載せられないですね。時々ですけど。やっぱり記事を上げた時は見てくれる人が少し増えます。</p>
会長	<p>では、こういう記事があるというところの誘導に繋がるもの、例えば先ほど防災アプリもそのようなニュアンスがありましたよね。とか、逆に、最初から詳細を、自分のターゲットのある所だから情報がどこに上がってくると、誘導する入口の情報発信部分というの、ひょっとしたらあるかもしれませんね。</p> <p>はい。ありがとうございますでは、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>資料のアンケートを送り返している人は、結構やる気がある人で、これが、現状を反映されてるのかという、そもそもの疑問もある。だから、アンケートの方法をちょっと変えてみるというか、例えば、乳児健診とか、そういうことができるかどうかともわからないですが、その時にちょっと答えてもらうとか。手間がかかるが実態を現せていないところがあるのではないかと。また、無作為に選んで答えてもらうのも1つだと思うのですが、御活動されてる方にヒアリングするとか、自治会の方に深くヒアリングするとか、そういう調査があってもいいかと。あとは、調査の内容についても、ほかこのことも聞かれてるのかもしれないのですが、さっきおっしゃったオンラインか、オフラインかっていう、特にご高齢の方はばらつきがあると思う。スマホを持っているとか。そういった調査、どういった環境、今ネット環境があるかっていうのも分析していく必要があるのではないかと思います。</p>
会長	<p>多分、今回私どもが立案していく際には、例えば、今、大学などは本当にこの4</p>

	<p>月、3月ぐらいからですね。我々大学のサイトのところから、個々の学生に対して、例えば「あなたはパソコン環境があって、オンライン事業参加できますか。」とか、いろんなアンケートを必要に迫られてくる。そうすると、返ってくる答えは、やっぱりきちんとした、状況が把握できる答えが返ってくるんですね。あるいは、「こういう財務支援があって、いついつまでに手続をすると、支援を受けることができます。」とお知らせすると、やっぱりその問い合わせにも真剣に皆さん見ていただいている。ですから、おそらくそういう形で、全員に意見を聴くということではなくて、今、委員がおっしゃったような、こういうところから、意見を聞いておきたいんだと、というようなことがあれば。費用をかけない、違うタイプのアンケート方式というのは、どうやらこの1年、2年で随分と定着するような、気がしますので、そういう方法も考えてみたらどうか。もう少し政策をひねり出すために、あるいは参照するための、調査っていうのはあり得るかもしれませんね。ありがとうございます。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>はい。私は、今は、両親が80代後半で同居しています。様子を見てみるとやっぱり、広報まいばらと伊吹山テレビしか見ないと。特に、地域の放送がなくなってからは、全く私達が必要なものだけ書いて知らせている。多分、広報まいばらは、個別に配布されてポストに入ってくるので、目に触れる確率性が上がるから、こうやって見られてるんだらうなというふうに思いますし、そういう組織、システムができてるのは、すごくアナログなやり方ですけど、いいところなのではないでしょうか。私自身は、大津出身なんですけれども、16年前に嫁いできてからしか住んでないのですが、私の両親が2年前に米原に転居してきたんですね。それで80代前半ですけれども、父が、音楽会とか、結構あちこち出向いて、なんだかんだ楽しんでるんです。「どこから情報を得ているの。」みたいな感じですね。不思議で聞くと、やっぱりチラシ類なんですよね。パンフレットとか。行った先で片っ端からチラシを採ってきて、チケットとって楽しんでいる。だから、どんどん紙媒体がなくなっていっちゃうと、どんどん楽しみがなくなるのかなという気はします。</p> <p>30代とか、その辺りでしたら、やはりそのSNSの数はすごく多いと思うんですけども。現状のところ、ツイッターとラインがやってなくて、私の感覚では一番、活用されてるものと思います。私自身はインターネットで市民さんが発信している「まいばらんど」を見ている。要は、気軽に見れるし、すごくツイッターとかは、それこそやり方によっては確実に若い世代に届くのにと思う。じゃあ、友達登録をしてもらえるかどうかという問題もあって、例えば何かお得なクーポンが時々流れるとかね、そういう何かがあったらきっと、確実に登録してもらって届くと思います。私自身、NPOの情報をどうやって市民の方々に知らせたらいいのかと、ずっと模索していて、今のところ思うのは、やはり、ラインは強いかなというふうに思っています。フェイスブックとかも一生懸命やってるんですけどやっぱり。その対象によっては効果的な部分がすごくあるのですが。</p>
会長	<p>ありがとうございます。いかがでしょうか。</p>

委員	<p>もともと伊吹町の出身で、さっきも言ったのですが、ちょっと前まで京都でも住んでいたのですが、結構、気づくのは、京都は、家にチラシとか、いわゆるプッシュ型の広告がたくさん入るんですよ。だから京都の人、都市部の人にはプッシュ型の広告に対してすごく嫌気がある。だから自分から情報を取りに行くことが、結構根づいている。だから、看板とか持っても、何が変わっても、そんな気づかないんです。だから、自分が欲しいものを取りに行くことができるスキルを持った人たちが結構いる。だけど、米原の広報まいばらとか、防災アプリというのは、多分、プッシュ型なんですよ。そのプッシュ型が多分とても功を奏していると思うんです。だから、チラシで全戸配布されるのも、全然価値が高いと思うんです。ただ、そればかりでやると、チラシはコストがかかるので、そうすると、そこからオンラインとオフラインをちょっとミックスして、オンラインに徐々に徐々に変えていくというのは、やったほうが良いと思っています。</p> <p>市のウェブサイトを見ていると、ちゃんと書いていてくれると思う。全部を。アイキャッチと実際欲しい必要な、絶対間違っていない情報というものは別だと思っています、たどり着けないと思うんです。そこがアイキャッチと、実際の、必要な文章みたいな、情報とでちょっと切り分けてやらないと難しいかなと。あとコロナ対策というぐらいのセグメントがあるなら、それだけで一つのサイトがあった方が、多分わかりやすいと思うんです。</p>
会長 委員	<p>ありがとうございます。いかがでしょうか。</p> <p>私、今、彦根に住んでおまして、仕事が米原の方ですが、仕事の関係、会社の関係で、広報まいばらとかそういうものは、あまり見ないんです。多いのは、紙面で送ってくださったり、それを見て、ちょっと興味のあるところを、オンラインで調べてるという形で把握しています。会社にいる人たちは、やはり高齢者の方が多くて、やっぱり見ていると、やっぱり紙で見ることが多いですね。スマホとか、あまりそういうものを活用されてるような感じはないです。商工会なんかは、ラインで、いろんな情報を共有しています。</p>
会長	<p>ありがとうございます。いろいろ参考になりました。委員の発言のところから、ちょっと話も内容を広げてもう1回議論を続けたいんですけど。コロナ禍ですね、勤務だとか、教育だとかいろんな分野で、参加できるタイプの会議の仕方だとか、オンラインという言い方で括っていいのかどうか、情報共有という意味で言うと、もう少し積極的なんですね、参加型のやり方みたいなものが、皆さん、これは自由発言してもらえれば良いんですが、どうですか何か体験的に新たなものが加わって変わりましたか。我々の場合はもう本当に、会議そのものがオンラインで開かれるケースが随分増えたりとか。</p> <p>学生や教員なんかでも苦手な人も、やっぱり実はいまして、特に教員なんかは、例えば大学でいうと、オンラインで5月から授業を再開するということに、一応、わからない人は非常勤の先生も含めて研修をやって、教育を最初の入口のところでやりますよと言ったら、延べ3000人来ました。だからちょっと、びっくりしました</p>

副会長	<p>けれど。でもやっぱり、それぐらいの緊急度があって、できない人がたくさんあって、でも、いや半年やってみたらですね、ある程度のところはみんなクリアするようになったというのが、私どもの実感なので、随分と様子が変わったと思うのが正直なところなんです、そこも含めて、オンラインでの状況のあり方や、それから今回のこの中の経験の中でですね、どんな可能性だとか、課題が出てきたのかというようなこと。少し副会長の方から、そこも含めたご発言いただけたらと思います。</p> <p>白石会長から、オンラインのいいところということで、普段はなかなか目にしてくれない。そういう人が目にしてくれるというのは、メリットがある部分で参加した時に、教育サイドから見ると、今まで他の教員がどういう授業をしてるか、見えなかったんだけど、それが把握しやすくなったという意味では情報を集めるコストは安くなったのかなと。それは感じるんですよ。先ほど委員からも、お話がありましたように、まず、オンラインとオフラインを組み合わせるというやり方も、もちろんであるのですが、オンラインに不向きな情報と、オフラインに向いている情報もあると、話を聞いていて思いました。ですから、広報まいばらだと、こういう情報っていうのはやっぱり高齢者の方が、かなり必要としている。ニーズが高いということなのでそれをオフラインで伝えていく。特に若い層についても、ちょうど今、うちのゼミ生も、卒論を書いている、その時に地元の子どもたちにアンケートをしたいということで、SNS、フェイスブックを使って、地元の20代前半の層に実施したところ、地域の外の方にも、結構、回答してもらっていて、100数十名ぐらい集まったと聞いているので、若い層はそういう情報に対して、結構レスポンスが早いというか、いわゆる学生の動きを見ていると、結構やっぱり早いなど感じていまして。実際、授業をしている時にも、授業資料を、毎回ウェブに上げるのですが、1週間で見れなくすると、見えている学生が特にレスポンスないのですが、見えてない学生からはレスポンスが来るんですよ。そうすると、ある意味、その学生の反応度というの、オンラインだと見れるので、今お伝えしたコストの面で情報を分けることも必要でしょうし。あとは目を向けてもらやすい情報とそうじゃない情報はあるかなと思いますので、そこを上手く分けて、情報の種類を、エリアを分けながら、その辺りの情報の伝達の仕方ですね、そちらの方を考えていかれるといいのかなと思いました。</p>
会長	<p>どうですか、委員の皆さんの中で、例えば、先ほど私どものお話をしましたけども、今年4月の入学式ありませんし、1回生の新入生は大学に9月のある時期まで、来ることがなかったんですね。その時にでも、やはり、新入生歓迎のイベントだとか、いろんな情報伝達。とりわけ、「こうやってカリキュラムを登録しなきゃいけないよ。」みたいな話を、いろいろとしないといけないものですから、やっぱりそれをオンラインで、資料をいくつか流しながら、必要なものについては、画面中継でライブで、あるいは録画をしておいて、後で見れるようにすると。こういうようなやり方をすることで、それでやっぱり、ある程度の解決は、実際図れたの</p>

<p>委員</p>	<p>で、例えば、何かそういう形のイベントの持ち方みたいなものは、ちょっと市の自治会とか、あるいは市のある部署とかで、できるのかもしれないと。特にイントロの話みたいなものとか。あるいは会議の中継というの、やろうと思ったらやれないことはないなというのが、私どもだけですけど。そういうことの要請を含めて、皆さんこの、コロナ禍で体験した、オンライン上での情報の共有、発信のあり方について、少しこういうことがあり得るのではないかというような助言や、何か思いつきがあれば、教えていただきたいのですが。どうでしょうか。</p> <p>仕事から、これまで基本、京都と東京で、オンラインでずっとやって来たのですが、多分知った方が得をするし、オンラインをしないと本当にコスト高になるかなと思います。もちろん不便なところがありますよ。やっぱり、実際に会って、一緒に感じてみたいなことを必要とすることもありますけど。でも、例えばズームにしても、スカイプにしても、オンラインの性能がすごく良くなった。画像性能がいいので。前までは、テレビ会議をしていても、音声のずれがすごく、ストレスだったのですが、今は全くない。もちろん仕事上でも使えるし、遠隔で離れている家族と話すことも、もちろんできる。そういうことを知ってもらえたら。コストもかからないので。それと、あとは、米原市内にWi-Fiのフリースポットが僕は少なすぎる気がしている。やはり、そういうところから、そこに行ったら、Wi-Fiが使えて、何人か集まるという効果ができていってもいいかなと。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p> <p>私もつい先日、大学で、オンラインイベントをやって、コストの安さというのは、すごい違うなど。チラシにしても紙で刷って、配ってというコスト。そういうのがなくてできたのは良かったと思っています。あとは、やっぱり必要に迫られて使い始めるというところは結構あるんですけど、市の情報共有のところで、それをオンラインを使っていこうとした時に、これはオンライン、これはオフラインということではなく、まぜるといって、一次情報はオンラインで飛ばすけど、そこから口コミで、「あれ見た？」というふうな仕組みがいるかと思っています。その都度やってない人には、こうしたら見えるよということを教えてあげるような、つながりがあれば、もっとオンライン使う人、やっぱり、何も知らない中でつないで、詐欺にあったら困るとか、そういうこともあると思うので、ちょっとそういう、今まで使っていない人のハードルを下げるようなやり方も必要かと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>先ほどね、プッシュ型っていうような言い方もありました。紙媒体がやはり必ず役に立つ人達もいるんだっていうことで、その両方。いずれにしても、その入口があってもっと取りに行きたい時には、ここへ行けばいいんだねとか、ここで聞けばいいんだねとか、そういうことがわかるようなそういう手だてというのを、オンライン、オフライン、やはり組み合わせつつ構成していかないと、どっちがどうですという議論をしてしまうと、どうやらうまくいかないのではないかと、もったいないということですね。はい。ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうかね。</p>

委員	<p>私自身もズームとかオンラインとかで、研修や講演会を聞くことが多くて、この場にいながら、そういったものができるということで、すごく有意義な方法だなと思っているんですけども。テレビコマーシャルでも、オンライン帰省とか言ってやっていますよね。会いにいなくてもこうやって画面をどうしたらいいかしらないけど。それはサポートする人がいるからできることだと思って見てるんです。やっぱり、そういうオンラインサポーターみたいな、その人のうちへ行って、こうやったら見れるとか、1週間まとめた情報でもいいから、そういう何かサポーターを募集したらいいかなというふうに思ったりもしました。私の仕事仲間でもやはり、60代の方でも「もうそんなもの無理無理無理」という方もいて、一生懸命説明して、本当は簡単なんですよ。コストも考えたらもったいないことをされてる方もいらっしゃるんで、そういうサポーターが地域にいたらと思います。</p> <p>●【テーマ2】オフライン（対面）でのゆるやかな交流・関わり方について （自治会機能、運営の在り方等）</p> <p>●【テーマ3】職員と地域との関わり方について</p>
会長	<p>少し時間のコントロールをしなければいけないので、今のテーマ1について、いろいろ意見出ました。私も「なるほどな」と思って随分、参考になることがありましたので、次の会議の際には、少し、整理をして、米原市にふさわしい組み合わせ、やり方の中での本来の工夫がこういうところだというような話を、できるようにしていきたいと思います。引き続きまして、関連して、今もうそういう話もいただいてき始めましたが、テーマ2とテーマ3を合わせてですが、オンラインではなくて、今度は、オフライン、要するに、対面的な、緩やかな交流、関わり方の作り方、あるいは自治会の機能等についての議論、それから職員がどういう役割を、地域との間で果たしていけばいいのかというようなこと、両方合わせてですね、残された時間のところで、議論をしたいと思います。これについては、一律に発言を求めませんので、御意見やコメントある方、手を挙げて御発言いただいたらと思います。いかがでしょうか。</p> <p>前期の議論の時に少し気になっていたのは、やはりテーマの3のところですね。結局、誰かまだ見ず知らずの関係で、お互いの意見交流や交流のやりとりを見に行ったらいいねみたいなことを、自信がない、あるいは、どうなんだろうかって思っている時に、自治体の職員の方が、「ぜひぜひこういうのがあるから使ってみてください。」とか、「見てください。」ということは、非常に重要で、ただそのときのイメージは地域に入るという言葉よりも、関わるという言葉もあるように、若干オフラインよりだったんですね。では今回の、ちょっと先ほどから話を聞いていると、もっとオンラインよりでも、ここのサイトだったら安心して見れるよねとか、このプッシュ通知なら受け取ってもいいや、というような、何かむしろそれぐらいの、関わり方だって、今の話を聞いているとあり得る。そういう点でいくと前期はそこ</p>

委員	<p>までは、お話はしてませんでした。どちらかというと、対面的な関わりを考えていました。ですからそこも含めてですね、また、テーマ3については御議論いただけたらと思います。テーマ2については、いろいろ、御意見あるかと思いますが、また、あれば御発言いただければと思います。いかがでしょうか。</p> <p>特にここでは具体的に自治会の機能運営といったことについて、前期では少し意見が出てたんですけども。もともとはオフライン、対面での交流というところの中で、自治会の役割は大きいというところから、こういう資料2のまとめみたいなものになっているのですが、何か課題や、方向性についてお感じになっていることがあれば、ぜひ、個人的な意見でももちろん結構ですのでどうでしょうか。</p> <p>自治会とその他の任意団体との関係で、前回の中に、なぜ自治会と分かれているのかと、自治会で取り組むべきではないかといわれているんですけども、自治会内でやろうとすれば、今、限界を超えてると。で、今、組織は、まちづくりというお話でいうと、本当の任意で、今は法人化してますけども、やっぱり基本的に、頭、ヘッドというんですか、山の頂上を目指してるのは、オール大野木と。できないところは、誰かがカバーして、大野木区民が大野木区民を守るというような感じでいまして、自治会でできないことは、こういう言葉は悪いですけど、動ける人が動いてくださいというやり方で、今は行ってます。高齢化率が38%ぐらいいってる中で。やはり、今まで水田をやった人も全然、少なくなってきました。それも、地元の有志に、今は任意団体にしましたけれども、水田も大野木の水田は大野木の人間が守る、という方向性です。</p> <p>一つはやっぱり、オール大野木でやりたいんですけども、自治会がまとめたんですけども、そこまでの、役員、構成的なものを見てもできない。そこで、そういう人たちに、ご協力願っています。去年、一昨年かな。山東地域のある自治会が、例えば、米原市の美化運動ということで、年4回ぐらい計画しているんですかね。そういう行事をやっている時に出てくる人と出てこない人がいる。あるところは、人手不足とか、お金を取る、反則金とか、どうするか、そういうアンケートをとられてたんですよ。うちとしてはそんなことは、もうやめる。とりあえず出てもらえる人は、出てきてください。80でも90でも。「用事がある人は仕方ないね。」ということで、今、ずっとそういう、「妥協・尊重」、そういう方向性でやっています。俗に言う、災害の場合ではないですけど、やっぱり自助、互助ということで。</p>
会長	<p>今言われたように、自治会が、従来の意味で言いますと、やはり、地域への帰属意識であったり、あるいは最近の、まちづくりの言葉ではローカルプライドなんて言うんですけど、やはり、「ここにいること。ここで働いていること。」というのが、ある種、自分自身の誇りに繋がるというような、そういう形でまちづくりを担っていく土壌というものが作られていくというようなことで、自治会の役割が、一方で言われているんですけど、他方で、交流という点でいくと、少しずつ変な言い方ですけど、交流する人数が、やっぱり割合が少しずつ減ってきてるのも、数</p>

委員	<p>字の上では現われてる場所がいっぱいあるので、そこら辺も含めてですね、どうしていったらいいのかということで、何かご意見もあれば、ぜひ、現状についての認識と、こうしてたらいいいんじゃないのかというのが、何か思いつき、ご意見があれば、そこも併せてご発言いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。</p> <p>私も今、自治会役員をやらせてもらっていて、私が住んでいるところは古い地域もあるし、新興住宅の地域、若い人しかいないところもあって、組長さんが30代とか、そういうところもあって、私のところは、混ざっているんです。最近、引越してきた人もあれば、昔からの御高齢の方もおられる。さっき言ったコミュニケーション、やりというところも、昔からのやり方を踏襲していて電話したり。だから、ラインでみんなでやったら、もう一番いいと思うのですがけれども、なかなかそこは、許容できなところもある。何が言いたいかということ、やはり自治会、自治会によって状況は全然違うというのはすごく感じている。私がいるところと、今さっき言った若いところでは、何か話しても、本当に三者三様、全然違うということもある。古い地域は、多分まとまっている。帰属意識があって、お祭りであったり、何かつなぎとめるものがあると。でも、さっき言った若い世代のいるところでそういうものが嫌で出てきた人とか、都会から来た人がいたり、いろんな人がいて、なかなか共通認識することが難しいと思います。昨日、新嘗祭が地元の神社であって、行ってきて話を聞いていたのですが、そういうことをおっしゃっていて、最近、そういう強要はできないけど、やはりそのギャップというか、自治会で全然違うということはあると思います。先ほども、オンライン化の話でもあったのですが、やはりニーズは聞かないとわからない。ケースバイケースっていうのがあるので。できたら、どういう機会かはわからないですけど、例えば市職員さんが自治会に一回来てもらうとか。やっぱりニーズが全く違うわけで、そういった意味で深掘りして、とりあえず知ってもらう。そこから始めても、一律に何かしようと思っても多分難しいと思う。そういった機会を設けてはどうかと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。他はどうでしょうか。いろいろ今これはまた次回議論を深めていけばいいと思うのですが、やはり自治会の機能を保つという言い方、いろんな機能がありますので。ここで何を大事にするのかということが、やはり少しは議論されなきゃいけない。そこを最低限守るためにはということ、どうしても議論されるのですが、同時に委員が言われたように、自治会の構成によって、いろいろ。世代のニーズも違えば、役割のニーズも違ってくるといことも考えると、その多様な役割を、どうやったら、うまくやっていってもらえるのかということも併せて考えなければならぬ。先ほど何人かの発言のところでも出ましたように、例えば、足を運んで、電話するのは大変だけどラインだったら楽だというような感覚の部分、そのあたりをある以降の世代、若い世代はきっとお持ちになっている場合に、ここの情報伝達については、どうしようかというような考え方。でも同時に回覧も全戸配布方式っていうのは意味があるよという委員の御発言もありましたから、やはりそのあたり、徐々に移行していく時期に差しかかっているわけ</p>

	<p>ですから、どちらもやらなきゃいけないということにはなるのですが、比較的そういう、オンライン型の手法を使うというのが、あまり得意ではないのがどちらかというと、自治会組織の場合、多いのかもしれませんが。あるいはその年齢層でいったらそういう高齢者の方や、語学的なハンディがある方、いろんな方がいるので、問題が難しいのかもしれませんが。そのあたりは、きちんと次回議論を拾っていきながらというように思っています。今、3つのテーマということで、とりわけ1番目のテーマについて、今日はお時間を取らせていただきましたが、審議ということなので、1回、1回、委員会で決着をつけて行きたいのですが、今日の議決といたしますか、確認をしたいのは、次回の会議で、今日いただいた意見を事務局でまとめて、さらに議論を深めるということで、継続の審議を続けたいということで、御確認をさせていただきますが、よろしいでしょうか。</p> <p>はい。ありがとうございます。では、次回までに事務局でまとめていただいて、事前配布含めて、皆さんの御意見をいただきやすいことを手続的にやって、1回皆さんに、また改めて御意見をいただいてまとめていく方向で進めてみたいと思います。</p>
--	---

<p>会議の公開・ 非公開の別</p>	<p>■公開 傍聴者： 0人 <input type="checkbox"/>一部公開 <input type="checkbox"/>非公開 一部公開または非公開とした理由 ()</p>
<p>会議録の開示・ 非開示の別</p>	<p>■開示 <input type="checkbox"/>一部開示（根拠法令等：) <input type="checkbox"/>非開示（根拠法令等：)</p>
<p>全部記録の有無</p>	<p>会議の全部記録 <input type="checkbox"/>有 ■無 録音テープ記録 <input type="checkbox"/>有 ■無</p>
<p>担 当 課</p>	<p>政策推進課</p>